

| | | | |
|------|---|-----|-------------|
| 活用事例 | 10 保護者への引き渡し訓練 【特色】二次避難場所での保護者への引き渡し、帰宅困難児への対応 | | |
| 学校名 | 下関市立岡枝幼稚園 | | |
| 日時 | 平成25年9月25日(水) 13:30~14:00 | | |
| 場所 | 運動場及び植松公会堂 | 参加者 | 園児・教職員及び保護者 |

1 訓練のねらい

保育中に地震が発生した場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、避難場所まで整然と避難ができるかどうかを検証する。さらに、保護者への引き渡しがスムーズにできるかどうかを検証する。

2 訓練の概要

1 地震発生

① 安全確保

- 放送で地震の発生を連絡
「緊急連絡。ただ今、非常に強い揺れがありました。落下物の危険がありますので、机の下に潜り、身の安全を守りなさい。」
- 教職員も作業用の机の下に潜る。



2 揺れが収まる

② 情報収集及び避難場所の決定

- 職員室にいる園長・園務主任による避難場所等の状況確認及び情報収集

- ・園施設の破損、火災の発生等はないか
- ・園庭までの避難経路に問題はないか
- ・園庭に亀裂や液状化はないか
- ・土砂災害等二次災害の情報はないか 等

- 避難場所を園庭と決定する。

③ 避難

- 放送による避難指示
「強い揺れが収まりました。園児・先生は、周囲の状況に注意しながら、直ちに園庭に避難しなさい。移動する際は、できるだけ建物から離れて避難しなさい。」
- 園児の誘導
 - ・教職員は、園児を先導し、事前に定めている避難経路に従って園庭に避難する。
 - ・職員室にいる園長・園務主任は、避難経路に立ち、園児が安全に避難したことを確認した後、自らも避難する。
 - ・園務主任は、ラジオで情報収集をしながら避難する。救急薬品も持参する。



④ 点呼

- 園児を整列させ、点呼を取り、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、園長に報告する。



3 今後、甚大な災害(土砂災害)が発生すると判断

⑤ 引き渡し降園の決定

- 園長は、第二次避難場所(植松公会堂)へ避難することと、保護者への引き渡し降園とすることを決定する。
- 園務主任は、引き渡し降園とすることを電話で家庭に連絡する。
- 園長の指示
「今の地震は、震度5の大変強い地震でしたので、おうちの方に迎えに来てもらいます。皆さんは、安全を確認しながら先生の言われる通りに教室に戻り、おうちに帰る準備をして、もう一度園庭に集まってください。」

⑥ 第二次避難場所(植松公会堂)へ避難

- 帰る準備をして園庭に集まった園児を、交通安全・道路の亀裂などに注意しながら、引き渡し場所へ避難させる。
- 園務主任は、引き渡しカードを持参する。



⑦ 保護者への引き渡し

- 迎えに来た保護者に直接園児を引き渡すとともに、引き渡しカードに記録する。



⑧ 帰宅困難園児への対応

- 保護者の迎えが困難な園児は、岡枝小学校の建物が危険でないことを確かめた上で、一旦小学校内の安全な場所

に待機させる。(今回は、全員引き渡し)

- ・ 土砂災害を想定しての引き渡し訓練であるため、園舎よりも隣接する岡枝小学校の方が安全であると考えられる。

したがって、岡枝小学校の3階に待機させる。また、建物被害の状況によっては、菊川中学校・菊川ふれあい会館などの施設も検討する。

- 保護者に園児の待機場所が分かるよう、園の職員室入り口に待機場所を掲示する。



⑨ 通報

- 園長は、教育委員会へ園児・教職員の避難状況及び保護者への引き渡し状況等を報告する。(今回は省略)

⑩ 指導講評

- 後日、園長による指導講評を行う。
 - ・ 職員会議で、成果と課題について検討する。

3 訓練の成果と課題

【成果】

今回の避難訓練では、土砂災害を想定して、事前に保護者へ引き渡し訓練を実施する事を知らせておいた。したがって、保護者に大きなトラブルもなく実施する事ができた。昨年度に引き続き、2回目の引き渡しになるので、保護者も二次避難場所・引き渡しの要領についてより深く理解することができた。

【課題】

実際の災害では、電話連絡が不可能であると考えられる。このことを考慮し、保護者に園児を迎えに来てもらうことをどう伝えるかが課題となる。